

「未来の地域編集部」（準備室）編集ワークショップ開催について

（１）ワークショップについて

飛驒地域総合移住ホームページ「グッとくる飛驒」の業務と連携するため、「未来の地域編集部」（準備室）編集ワークショップを開催した。継続的な情報発信を行うにあたり、地域プロモーションができる人材を育てることは他地域と差別化を図ることができ飛驒地域の大きな強みとなる。

全４回のワークショップでは、コロカル編集部からプロの編集者、ディレクター、ライター、カメラマンをゲストに迎え、ふだん地域内ではなかなか学ぶ機会の少ない編集業務について、一連の流れを学ぶ。また、最終的な制作物として、ワークショップ内で制作する記事を「グッとくる飛驒」のwebサイトに掲載。コロカル記事からwebサイトへの誘導を図った。

（２）ワークショップ詳細

○日程

第１回 10月30日（日）

第２回 11月27日（日）

第３回 1月15日（日）

第４回 2月19日（日）

○場所 co-ba HIDA TAKAYAMA 住所：岐阜県高山市本町3丁目7

○時間 13:00 - 17:00

○料金 無料

○参加人数 25名（高山市：12名、飛驒市：6名、下呂市：2名、白川村：2名、東京：1名滋賀：1名、広島：1名）

○参加者属性：印刷会社勤務、建築設計士、英会話講師、デザイナー、地域おこし協力隊、ゲストハウス経営、個人商店経営など、4市村から多様な人材が集まった。

（３）報告

○飛驒「未来の地域編集部」ワークショップ vol.1

実施日：2016年10月30日

主催：飛驒地域創生連携協議会

運営：コロカル編集部（及川卓也氏、林真由美氏、大草朋宏氏）

進行：株式会社 美ら地球 白石達史

参加人数：24名（1名欠席）

内容：

① 講義 コロカル編集長：及川卓也氏

及川氏より「地域ブランドとは、編集とは」をテーマに講演が行われた。「飛驒という地域」の価値について考えるとき、まずブランドとして言語化、意識化することが必要である。それをベースに飛驒地域の魅力、情報の発信を行う（移住・定住促進が目的）。情報を切り取って、

取材して、発信する。そこに必要なスキルが「編集」である。全4回のワークショップでは、この編集作業の一連の流れを学ぶことを目的とした。



② ワークショップ コロカルディレクター：林真由美氏

林氏と及川編集長の指導の下「飛騨地域の価値」について考えるワークショップを実施。4グループに分かれて、以下のテーマでテーブルごとのワークを行った。

【ブランド価値の言語化】

1. 飛騨地域の魅力の再発見
2. 価値と事実の引き出し方
3. ブランド価値の言語化



なお、各グループの発表の後に及川編集長による講評と、次回への宿題が提示された。宿題は毎回出されるが、不明点がある場合など、全員共有のメーリングリストを使ってサポートを行った。

○飛騨「未来の地域編集部」ワークショップ vol.2

実施日：2016年11月27日

主催：飛騨地域創生連携協議会

運営：コロカル編集部（及川卓也氏、林真由美氏、大草朋宏氏）

進行：株式会社 美ら地球 白石達史

参加人数：22名（3名欠席）

内容：

- ① 講演 コロカル編集長：及川卓也氏

「編集の視点と技法」をテーマに、第一回目のワークの振り返りと、この回で学ぶトピックの説明を行った。「編集」とは情報整理ではなく、価値の発見と表現である。「飛騨地域の価値」について考えるとき、ブランドとして言語化、意識化することが大切である。また、編集はつくり手の発見の喜びやワクワクが読者に伝わるものであるため、パーソナルな視点も入れてつくることが重要である。



② ワークショップ コロカルライター：大草朋宏氏

連載企画、特集企画のテーマラインナップを議論。興味のあるグループに分かれ、各テーブルを地域編集部と見立て企画会議を行った。地域編集部でしか出せない切り口も多く、通常の編集会議とは異なるユニークな結果が生まれた。

【テーマ議論の流れ】

1. カテゴリテーマを決める
2. 企画会議をする
3. 記事テーマを決める



記事テーマを決めた後は、インタビューワークを行い、招いたゲストに対して相手の話したいことを引き出すコツを学んだ。また、企画会議の段階でテーマ設定を行うことの大切さや、テーマの軸を定めて原稿制作にあたることの重要性を認識した。

○飛騨「未来の地域編集部」ワークショップ vol.3

実施日：2017年1月15日

主催：飛騨地域創生連携協議会

運営：コロカル編集部（及川卓也氏、林真由美氏、大草朋宏氏、絹川憲人氏、ただ氏）

進行：株式会社 美ら地球 白石達史

参加人数：16名、※大雪のため、web ストリーミング中継参加者3名

内容：

③ カメラ撮影講座 写真家 ただ氏（ゆかい所属）

今回はヒト、モノにフォーカスした内容に絞り、カメラの機能的な説明は割愛。実際に手を動かしてどのように撮れるのか確認を行った。いい写真を撮るとのことよりも、「その写真で何をどう伝えるか」を考えることが一番大事である。たとえば、商品そのものの説明的な写真だけでなく、読者に使用感を想起させ感性的に訴求する写真が必要。対象に自分に向けて発信された情報だということ認識させることがポイントだということ、実践を通して学んだ。



④ web サイトの運営方法 コロカル web ディレクター 絹川氏

カメラ講座の終了後、コロカルの web ディレクターである絹川氏の講演を行った。web メディアの運営がスタートしたら、取材や編集をして記事を公開するというものに加えて、記事を「届けて」「読んでもらう」ことを意識することを学んだ。

例) 数字をもちこむ、自分向けの記事と認識させる、独自の表現やワードを盛り込む、検索されるキーワードを盛り込む

○個人ワーク 「タイトル付け」ワークショップ

コロカルに実際に掲載されている記事を読み、そのタイトル付けを行う。記事を届けて、読んでもらうためのコツを学んだ。

Vol.3のワークショップは、撮影のちょっとしたコツやすぐにでも試せるものから、実際のweb記事制作の際のタイトルのつけ方まで、インプットの多い内容であった。基本的な点を押さえれば、あとはクオリティを高めていくことで、大手メディアが行っている仕事と変わらない状態まで持っていけることが分かった。今後は、地域編集部でしかできないことをより掘り下げることで、メディアの価値が生まれることが分かった。

○飛驒「未来の地域編集部」ワークショップ vol.4

実施日：2017年2月19日

主催：飛驒地域創生連携協議会

運営：コロカル編集部（及川卓也氏、林真由美氏、大草朋宏氏、絹川憲人氏）

進行：株式会社 美ら地球 白石達史

参加人数：14名

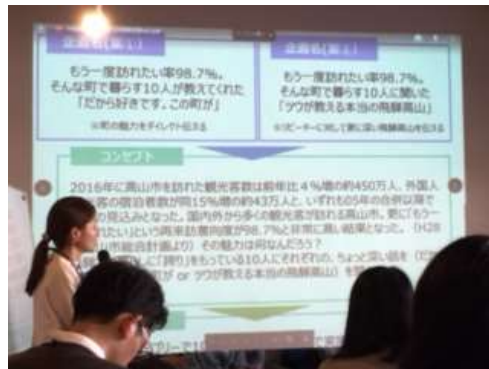
内容：

③ プレゼンテーション

発表者：ワークショップ参加者全員

進行：林真由美氏

Vol.3の課題として出ていた「グッとくる飛騨」の特集・連載企画についてのプレゼンテーションを行い、全体でのディスカッションと編集部からの講評をもらった。発表はどうしてその特集を組もうと思ったのかという点まで掘り下げ、特集は読者にとってその場所がグッと身近になることで、メディアの価値が上がり、伝えるべき内容も深くできるという視点を持って、どのようにすればターゲットに刺さるのか、どういった点を掘り下げるのかを追求した。



④ 原稿講評

コロカル編集長 及川氏、ライター 大草氏

特集・連載企画の講評後、vol.2から引き続きブラッシュアップを続けてきた原稿についての講評に入った。全体的には、課題の添削を繰り返したことで原稿のクオリティが大きく向上した。これまでのワークショップで行ってきたことは以下の通りで、段階を踏んで記事制作に臨んできたため、参加者が成果を徐々に体感できた。

1. 飛騨の魅力が何なのかを探る
2. 地域メディアのミッションを意識する
3. 飛騨ならではの魅力の伝え方、刺さる伝え方を考える

なお、最終的にアウトプットするものは、さらに何往復か編集部とやり取りをして完成させることになり、3月下旬にコロカルとグッとくる飛騨の連動企画にて公開予定である。

(4) 今年度の学びと、次年度以降の方向性

今年度はコロカルとしても初めての取り組みとなり、地域メディアの根幹を成すライター養成を行うことができた。当初予定していた、地域プロモーションをできる人材の育成という目的はおおよそ果たせたと言える。

今回の協業により、地域メディアを存続させられる大きな一歩を踏み出せたばかりなので、来年度以降は参加者の中から編集部に参加するコアメンバーを 5-10 名選出し、「未来の編集部」の立ち上げを行っていく必要がある。大手メディアにはできない、未来の地域編集部ならではのブランドをつくり、飛騨地域の中で移住に関する情報を集約していくことが今後のミッションとなる。

また、今年度のワークショップは質を重視したため、25 名の参加者だけを対象にしたクローズドなワークショップであったが、来年度はメディアを進化させるコアメンバーでの編集会議に加えて、地域に開くオープンな企画を行っていくことも検討の余地がある。地域住民が各回で参加できる、巻き込み型のメディア運営を目指していくことで、地域との関わりしるを増やしていくことが望ましい。

以上